

兵庫県医師会医療支援チーム（第23陣）「宮城県災害支援現地報告」

西宮市医師会 谷口 賢蔵

避難所となっている小学校、中学校は5月9日の授業再開に向けて準備されていました。避難された方々は、体育館に集められました。体育館の環境は劣悪で空気が淀み、埃が立ち咳をしている人がたくさんいました。私の担当は、石巻中学校と住吉中学校の診療所でしたが、待っていてもほんの数人来所されるだけで、そのほとんどは慢性疾患のリピーターでした。看護師と相談し体育館の中に入って行き積極的に声をかけて聞いてみると様々な症状を訴える人、悩みを持った人が多くいて、この人達には出来るだけ時間をかけて話を聞くように心がけました。そろそろ精神的なサポートの必要な時期が来ていると感じました。

今回の医療チーム（看護師、薬剤師、事務も含め）は「えー、ほんとに？」と思うほど優秀で、キャリアのあるメンバーなのに驚きました。診療科目も多彩で、この時期の様々なニーズに対応できたと思っています。最後の別れでは、少しウルルンしました。皆様どうも御協力ありがとうございました。

帰途、飛行機から夕日に輝く富士を眺めウトウトしかけると、機長の快いアナウンスが流れてきました。「・・・被災者のために何か出来るものはないかと考え、仙台空港の再開を知り志願して搭乗しました、・・・」

